

第10回「小平市行財政再構築推進委員会」要録

出席者

- 【委員】川口雅也副委員長（委員長代理）、大杉和美委員、川口幸子委員、菅野成美委員、中川稔進委員
【市側】行政経営担当部長、行政経営課長、行政経営課長補佐2名

1 小平市第3次行財政再構築プランの中間総括（案）について

（大杉委員）

- ・この中間総括が長期総合計画にどのような形で反映されるのかが気になる。
- ・感染症に基づいて適切な対応という話は、長期総合計画の中にも盛り込まなければいけない。
- ・ソーシャルディスタンスが言われる中で、情報の共有について今後の方向性がもう少しボリュームがあってよい。
- ・これまでも申し上げてきたが、財政が厳しくなるということは、もっと前面に、目立つところに具体的な数字をあげて示すべき。何年後にはこのようにだんだん財政が厳しくなるということが表に出てくるといい。
- ・緊急事態宣言が出された時など有事の際、ウェブの会議でやることはとても有効だと考える。環境が整わない場合、公共施設を利用して自宅外から参加できるようにするなど、この際、次に備えて、いろいろな準備を進めてほしい。

（川口（幸）委員）

- ・P10 執行体制の再構築について、成果として、民間委託の推進や、国分寺市との連携の推進とあるが、まずは、PFIを中心とした公民の連携、民間活力をしっかりと活用し、財政負担を下げて行くんだという方向性を確認する必要がある。また、近隣市との連携という事例もあるが、公公の連携も、必要な投資と無駄な投資を判断し、コンパクトにできるものはそのようにしていく、行政間の連携で無駄を省いていくことも直接的に財政負担を下げる効果が得られると思うので、具体的に進めていく体制を整えていただきたい。
- ・限られた人員体制については、成果として人口1万人あたり50人とあげられているが、AIやRPAが導入されると、本当の意味で50人が適正なのか、働き方改革のことも考えると、適正な人員は日々刻々と変わると考えられる。適正人員の指標の立て方は、常に検討していくべき。
- ・危機対応の面では感染症という予測できない事態となり、地震、水害、感染症と、災害にもいろいろな種類があるのだと今更ながら感じている。それにより避難行動も違えば、生活、復興のプロセス、すべてが違う。災害が複合、重複したらどうなるのかと恐怖である。地域自治の格差もクローズアップされている状況であり、危機管理の面では、住民の安全を守るという意味で信頼関係の基本となる。その点にも着目して進めていただきたい。
- ・P10 方針5は、方針4 財政基盤の強化と一体で進められるものだと思うので、関連性をふまえなが

ら進めていただきたい。

(菅野委員)

- ・公共施設整備基金と、財政調整基金は、平成 28 年度から増えてきており、目標に近づいているのかとも見えるが、自分たちの世代に課せられた課題だと再認識している。公共施設の老朽化が前回、前々回から話題になっており、更新ピークが迫る中、一番重要な課題だと感じている。基金についても、気を抜かずに管理を。
- ・コロナ禍の中、わざわざ集まらなくてもできる事がたくさんあったということが浮き彫りになった。時間短縮や削減、削除、スリム化が進めば、財政基盤にも強く反映されるのでは。

(川口（雅）委員長代理)

- ・二つの基金は、令和元年度末ではいかがか。減少する見込みということであれば、P4にも何か書くとよい。P9にも書かれてはいるが。

(中川委員)

- ・9月末現在のプログラム進捗として、ほぼ予定どおりとなっており、評価すべき。
- ・表記の仕方は、わからない人が見て、わかる書き方を。もう少し具体的に書けるところはないのか。方針 5 では、民間委託が進んでいる、他市との連携が進んでいるだけでなく、実績として示せるものがあるのなら、こういうことで連携したなど、書き込む方が読んだ人がイメージしやすい。今後のプログラムにも関わってくるのだとすれば、なお具体的に書き込む必要があるのでは。
- ・職員配置に関して、スリム化、適正配置は大事だとは思う。しかし、地域協働に関しては、これを実行しようとする、オンラインでは無理である。職員が今後どのような役割を果たすのかを、前提としてしっかり整えた方が配置しやすいのでは。このような状況下で、システムからオンライン化等、様々な方式が導入されるが、P7 コーディネートは、オンラインではできないと考える。最終的には、人をまとめるのは顔を突き合わせてというところが拭えない。職員の今後のありよう、求められる人材像は、このようなところから引き出せるのでは。

(川口（雅）委員長代理)

- ・具体的な記述を、という意見は、そのとおりだと思う。
- ・基本構想に一本化することは、事務量を減らす、資料を減らすという点でも非常に良い取組である。
- ・全般的な話が P3-4にあるが、結果をどう判断するかを書く方がよい。たとえば P3 に財政効果 19 億 9,000 万円とあるが、これが市にとってどうだったのか、良くできているのか、頑張った結果妥当なのか、足りなかったのか、が書かれているとよい。